

日本臨床検査専門医会

平成 20 年度第一回常任・全国幹事会議事録

平成 20 年 1 月 25 日

平成 20 年度 第一回常任・全国幹事会議事録

開催日時：平成 20 年 1 月 25 日(金)、12 時～15 時

場 所：日本臨床検査医学会事務所

参加幹事：渡辺清明、熊谷俊一、渡邊 卓、佐守友博、土屋達行、村田 満、矢富 裕、
市原清志、伊藤喜久、今福裕司、康 東天、木村 聡、前川真人、
宮澤幸久、山田俊幸、佐藤尚武

参加監事：水口國雄

出席 17 名

欠席：宮地勇人、大谷慎一、熊坂一成、小出典男、犀川哲典、三家登喜夫、館田一博、
橋本琢磨、深津俊明、藤田直久、松野一彦、満田年宏、保嶋 実、高木 康

欠席 14 名

(敬称略)

議事に先立ち渡辺清明会長から挨拶があった。

議事録署名人に、佐守友博幹事、土屋達行幹事を指名して議事に入った。

報告事項

- (1) 平成 20・21 年度役員選定について(資料 1)(佐藤庶務・会計幹事)
平成 20・21 年度役員一覧を資料として提示し、報告を行った。
- (2) 各種委員会について(資料 2)(佐藤庶務・会計幹事)
平成 20・21 年度各委員会の名簿を資料として提示し、説明を行った。
渡辺会長より臨床検査専門医在り方委員会のメンバーから除いてほしい旨希望があった。
- (3) 平成 20 年度行事について(資料 3)(佐藤庶務・会計幹事)
平成 20 年度行事予定表を資料として提示し、説明を行った。
- (4) 第 18 回春季大会について(資料 9)(熊谷副会長)
第 18 回春季大会の概要について資料提示の上説明と宿泊案内についての紹介があった。本資料は後日会員に対し発送する予定である。
- (5) 臨床検査専門医・管理医審議会報告(資料 4)(佐藤庶務・会計幹事)
2007 年 12 月 22 日および 2008 年 1 月 20 日開催分の臨床検査専門医・管理医審議会議事について、資料提示の上報告があった。
当会からは臨床検査専門医のための卒後研修ネットワーク構築に向けて、日本臨床検査医学会に対し提言を行ったことが報告された。
 - 理事会で検討する。(宮澤幹事；日本臨床検査医学会理事長)
 - 臨床検査管理医未登録の臨床検査専門医に対し、積極的に登録を勧誘してほしい。(渡辺会長、宮澤幹事)
 - 臨床検査管理医制度の普及により、臨床検査専門医認定試験の受験意欲が減退する恐れはないか。(水口監事)

- 将来的には施設認定などに際し、臨床検査専門医と臨床検査管理医の間で差別化を図りたいと考えている。(宮澤幹事)
- 臨床検査管理医制度の過渡的措置は昨年で終了したのではないか。(佐守幹事)
- 過渡的措置は一年延長になった。(渡辺会長、佐藤幹事)

(6) その他

① 日本臨床検査医学会 第2回標榜科検討委員会の報告(熊谷副会長)

日本臨床検査医学会 第2回標榜科検討委員会の議事録を資料として提示し、報告が行われた。

院内・院外での掲示の問題、外来診療の問題、開業医の可能性などについて活発な質疑があり、諸問題に対しては、当会でも引き続き検討していくことが確認された。

審議事項

(1) 平成19年度決算について(資料5)(佐藤庶務・会計幹事)

平成19年度の決算報告書を資料として提示し、審議した。

- 繰越金が予定より400万円弱多いが、これは例年認められることなのか。もしそうであれば渉外委員長として、また登録衛生検査所所属の立場で振興会費の減額をお願いしたい。(佐守幹事)
- 自分が会計を担当していた時は収入と支出がおおむね見合っており、繰越金が見込みより大きく上回ることはなかった。従って定常的な状況ではないと思う。(土屋幹事)
- 具体的な予算化はまだ実行されていないが、今後は情報・出版関連や教育研修関連でかなりの出費をする可能性がある。そのため近年極力出費を抑制し、繰越金を増やすよう努めている。(佐藤幹事)

(2) 平成20年度予算案について(資料6)(佐藤庶務・会計幹事)

平成20年度予算案は昨年11月の幹事会で一度提示したが、最終の決算報告を受け一部修正したので、その予算案を資料として提示し、審議した。

- 繰越金として1,500万円の予定額が掲示されているが、実際の繰越金は異なるので、実際の額を記入すべきではないか。(康幹事、佐守幹事)
- ご指摘の点を訂正し、各幹事にメール配信する。(佐藤幹事)

(3) 今後の活動について

① 出版関連について(渡辺会長)

情報・出版委員会で扱っている出版物としてLabCP、JACLaP NEWS、JACLaP WIREがあるが、これらが会員に有効に利用されているとは言い難い状況である。この際当会の出版物の内容を全面的に見直し、会員にとって実際に役立つ情報を提供していきたい。

- 出版物には一部内容が重複しているものがある。渡辺会長の希望でもある

ので、ホームページを含め出版物の内容を見直す予定である。(矢富情報・出版委員長)

- 現在の出版物は内容のマンネリ化、硬直化が認められる。内容を見直す時期に来ている。(木村幹事、土屋幹事)
- ホームページの管理も含め宇宙堂に依頼することも考えてみてほしい。(渡辺会長)
- 来月情報・出版委員会を開催し、具体的に検討したい。(矢富情報・出版委員長)

② セミナー関連について (佐藤庶務・会計幹事)

現在の形の教育セミナーは担当施設の負担が大きく、今後の継続が困難になってきている。森前会長の時代にセミナー改革の方向性は決定し、宮地委員長を中心に作業が始まったところであり、現体制でもこれについては継続する必要がある。具体的には以下の4点である。① 臨床検査専門医認定試験受験者向けのセミナーは実技実習が中心であったが、今後は画像メディアを使ったデモ形式のセミナーとし、習得すべき技術の紹介等を行う。② 実技技術については自施設での習得を基本とするが、自施設での実習が困難な受験希望者に対しては、卒後研修ネットワーク(報告事項(5)参照)を整備し、これを補完する。③ 認定試験対策的セミナーの比重を減らし、生涯教育的セミナーの比重を高める。④ 当会の生涯教育セミナーを認定更新のためのクレジットに組み込むことを目指す。

なお審議事項(1)で述べた今後見込まれる予算化されていない出費の一つがデモ教材の作成費用である。

- デモ教材を使った多人数のセミナーは不要ではないか。デモ教材を配布すれば良いのではないか。(康幹事)
- 配布も検討しているが、直接的な質疑応答など多人数を対象としたセミナーを実施するメリットもある。森会長の時代の議論ではセミナーとして実施すべきという意見が多かった。(佐藤幹事)

③ 会則に関して (土屋資格審査・会則改定委員長)

この後の議題として準備されている準会員の問題(審議事項(6))など、会則には見直しが必要な点が認められる。しばらく会則の体系的な見直しは実施されていないので、自分の任期中に一通り見直しを実施したい。

④ 臨床検査専門医在り方委員会の活動に関して (渡辺会長)

臨床検査専門医の Identity の問題については以前から議論されているが、未だに結論は得られていない。臨床検査専門医の役割を目に見える形で確立し、一般人にもその存在を認識してもらうことが必要と考える。大変難しい問題だが、臨床検査専門医の役割の確立に向け積極的に活動していきたい。そのために従来の「未来ビジョン検討委員会」に代わって「臨床検査専門医在り方委員会」を新設し、村田先生に委員長をお願いした。

- この委員会の活動目的は外に向かったの対外的アピールか、それとも会員

に対するものか。(村田在り方委員長)

- 両方を目的としている。役割を確立して対外的にアピールし、Identityの確立を目指すと共に、臨床検査専門医に対しては定められた役割を十分果たすことを求めていく。(渡辺会長)
- まずは大学病院における役割の確立を目指すべきと考える。(康幹事)
- この後、標榜科問題との関係や、卒後研修カリキュラムおよび認定試験との関係などについて、活発な議論があった。また臨床検査管理加算の要件として臨床検査専門医の存在を組み込むべきで、これにより病院内での役割はある程度確立するという意見が複数の幹事から表明された。これに対し渡辺会長から、臨床検査専門医の管理加算要件化は現状では難しいが、将来的にこれを目指しているとの回答があった。

(4) 平成20年度活動予定について(資料7)(佐藤庶務・会計幹事)

平成20年度活動予定を資料として提示し、以下の通り説明を行った。

① 幹事会について

平成20年度行事予定表(報告事項(3))に示された幹事会の日程は動かすことができないが、それ以外は多少の調整は可能なので、変更希望を聞いた。また開催時間は昨年までは15時~17時を原則としていたが、今回は地方在住者を中心に12時から開催を希望する幹事が多く、今後は原則として12時~15時の開催となった。

② 各委員会について

各委員会は活発に活動していただきたい。そのために会議費の予算を増額した。情報・出版委員会と渉外委員会は来月開催が予定されている。

- 他の委員会もなるべく早い時期に一度は開催して欲しい。第一回目の会合には都合がつく限り参加するつもりなので、開催日程が決まったら連絡して欲しい。(渡辺会長)

③ 出版関連に関して

JACLaP NEWSに関し、1月18日の打合せ会で決定した事項について以下の通り連絡した。また要覧の発行について意見を聞いた。

JACLaP NEWSは現在No.98まで発行されている。No.100は記念特集号とし、編集は初代編集主幹であった戸谷誠之先生にお願いした。No.101からは体裁・内容を一新する予定で、これについては矢富委員長を中心に情報・出版委員会で検討してもらおう。No.99に関しては従来通りの体裁で発行し、編集主幹は前任者である大谷慎一幹事にお願いすることになった。

要覧に関しては昨年の幹事会で製本化は中止し、WEB化することが決定している。しかし渡辺会長は製本化を望んでいるため、改めて各幹事に意見を聞いたところ、要覧は製本化の希望が多く、発行することに決まった。

(5) 発足25周年記念行事に関して(渡辺会長)

当会の設立については幾つか説があり、明確ではないが、要覧に森前会長

が記した「日本臨床検査専門医会の活動とあゆみ」によれば今年の5月に設立25周年を迎える。河合忠先生と高木康先生に確認したが、25周年ということではよいだろうとのことであった。記念行事を行いたいと考えるが、ご意見を伺いたい。

- はっきりしない点もあるが、25周年でよいと思う。(佐守幹事、土屋幹事)
- 記念行事は行った方がよい。(水口副会長)
- 今から春季大会に組み込むのは困難だと思うので、7月頃を目処に企画したい。(渡辺会長)
- 7月の振興会セミナーにジョイントしてセレモニーを行ってはどうか。(佐藤幹事)
- その方向で企画を考えたい。(佐守渉外委員長)

(6) 会員（特に準会員）について（土屋資格審査・会則改定委員長）

現在準会員はいない。準会員制度の廃止も視野に入れ、資格審査・会則改定委員会で検討する。意見があれば頂きたい。

(7) 振興会に関して（資料8）（渡辺会長）

振興会については資料の通りであるが、近年は企業の合併なども多く、会員数は減少傾向にある。新入会や再入会してもらえそうなメーカーがあれば、是非勧誘していただきたい。

- 地方会員は作ってはどうか。(佐守幹事)
- 振興会の会員も会員と同じようにA、B二種とし、会費を二段階にすることを考えても良いかもしれない。(佐藤幹事)

(8) その他

① パブリックコメント送付のお願い（渡辺会長）

1月18日付で次期診療報酬改定に係わる中医協の骨子案が提示されており、本日までパブリックコメントを受け付けている。是非コメントを送っていただきたい。

以上

議事録署名人

平成20年 3月 6日

土屋達行 印

平成20年 月 日

佐守友博 印